

身近な下水道の情報誌

あお

みずらみ

碧い湖

令和8年春号

No.68

P.2 ~ P.3 ... げすいとぴくす

作品からのメッセージを感じてください

P.4 ~ P.5 特集

ここで働く人取材しました

P.6 市町村だより

多彩な顔が見える町からです

第32回「よりよい水環境づくり」ポスターコンクールが開催されました！

琵琶湖をはじめとする公共水域の水質保全など水についての重要性を認識してもらうことを目的として、水環境への想いを描いたポスターコンクールが開催されました。県内の小中学生から25作品の応募がありました。その中から受賞されました作品をご紹介します。

主催：NPO法人ひかりグループ
 後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、草津市、草津市教育委員会、(公財)淡海環境保全財団

滋賀県知事賞



近江八幡市立島小学校 5年生
森 駿人さん



近江八幡市立島小学校 3年生
藤崎 奏多さん



滋賀県立水口東中学校 3年生
原 彩葉さん

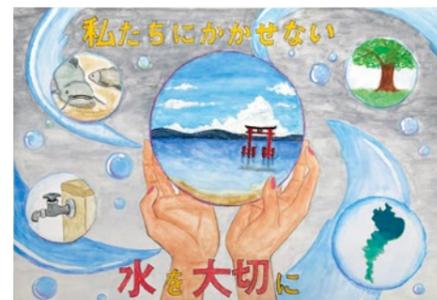
滋賀県教育委員会教育長賞



近江八幡市立老蘇小学校 3年生
喜田 陽翔さん



近江八幡市立老蘇小学校 6年生
山梶 煌藍さん



彦根市立西中学校 2年生
小山 瑠那さん

(公財)淡海環境保全財団理事長賞



滋賀県立三雲養護学校 1年生
木村 迅臣さん



近江八幡市立老蘇小学校 5年生
鈴木 禅さん



彦根市立西中学校 3年生
松居 悠馬さん

草津市長賞



滋賀県立三雲養護学校 3年生
仲北 葵さん



近江八幡市立老蘇小学校 4年生
國領 歩さん



滋賀県立河瀬中学校 3年生
家森 美緒さん

草津市教育委員会教育長賞



滋賀県立三雲養護学校 2年生
佐井 心音さん



近江八幡市立老蘇小学校 5年生
市岡 彩葉さん



滋賀県立河瀬中学校 1年生
玉井 愛香さん

特集「浄化センターってどんなところ」

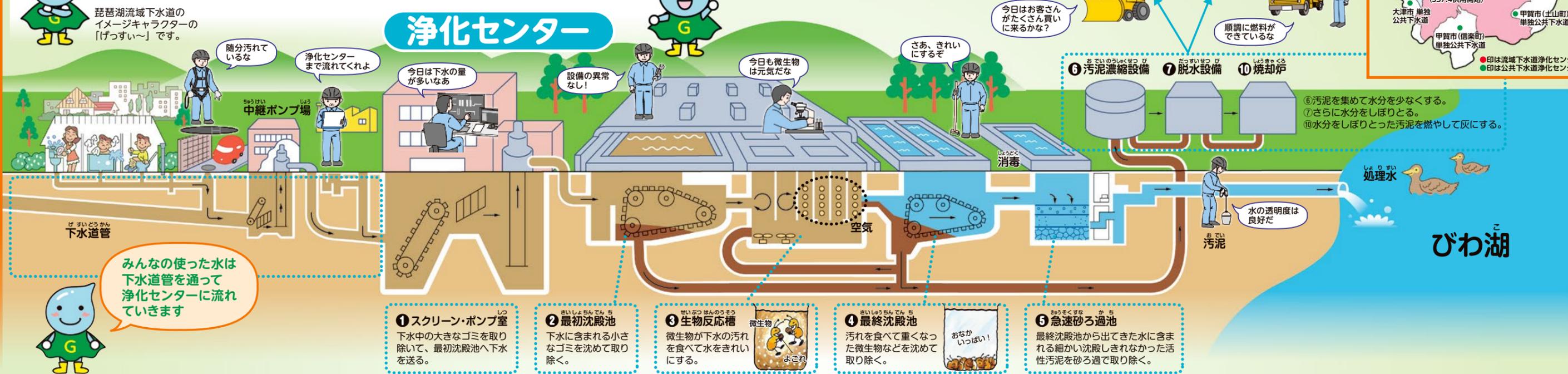
～浄化センターの仕組みと働く人の役割を紹介します！

滋賀県にある
浄化センターだよ



- ◆暮らしの中で使う水道水、滋賀県ではその7割近くを琵琶湖から取水しています。
- ◆わたしたちが使った後の汚れた水(下水)もほとんどが最終的に琵琶湖へ流れていきます。もし、下水をそのまま琵琶湖に流してしまうとどうなるでしょう・・・
- ◆浄化センターでは、下水を琵琶湖に戻すことができるように、下水道管で集められた下水をきれいにしてから琵琶湖に流しています。そんな浄化センターってどんなところなのか「げっすい〜」と一緒に見にいきましょう！

琵琶湖流域下水道のイメージキャラクターの「げっすい〜」です。



ここが浄化センターか、建物や施設がたくさんあるね
下水が施設を流れていくうちにだんだん水がきれいになっていくんだね
あれ、よく見たら人がいるぞ、何をしているのか聞いてみよう！



①汚泥肥料化施設
②汚泥燃料化施設
今日はお客様がたくさん買いに来るかな？
順調に燃料ができています



③汚泥濃縮設備
④脱水設備
⑤焼却炉
⑥汚泥を集めて水分を少なくする。
⑦さらに水分をしぼり取る。
⑩水分をしぼり取った汚泥を燃やして灰にする。



びわ湖
処理水
水の透明度は良好だ

お仕事ファイル1 【マンホール点検】

マンホールの中に入って、下水道管や下水の流れに異常がないか点検しています。

- 重たい安全装備を付けて湿気も多いマンホール内を昇り降りします。硫化水素対策で送風・換気してから入りますがやはり気になります。
- 点検で汚れますが戻ってきてシャワーを浴びると体も心もリフレッシュします。
- 点検では車両などの交通規制も行いますのでご協力いただけますと感謝です。

マンホール内での点検

お仕事ファイル3 【運転管理】

中央監視室のモニターで浄化センターやポンプ場の状態を監視したり、下水の量や状態の変化に合わせた運転操作を24時間交代しながら行っています。

- 台風の接近の際には浄化センターで待機して予備の設備を稼働する準備や運転方法の検討などでバタバタします。
- 夜勤での運転が無事に終わって朝家に帰る時、安堵感と開放感に満たされます。
- モニターで下水処理の不具合に気づいて、運転方法を話し合って速やかに対処できた時はやりがいを感じます。

浄化センターの運転方法の話し合い

お仕事ファイル5 【水質・汚泥管理】

流れて来る下水の量や水質を把握して、下水をきれいにする汚泥の中の微生物の状態などを調整、管理しています。

- 処理する微生物の元気がなくなった時は、どうやって復活させるか悩みます。
- 毎日違う状態の下水が流れて来るので最適な処理を考えて汚泥の調整、管理を行い、微生物がきちんときれいになってくれた時は喜びを感じます。
- 微生物の処理能力には限界があります。食べ残しの汁や油、醤油、ジュースなどをできるだけ流さないようにご協力ください！

微生物 (クマムシ)
微生物 (ツリガネムシ)

お仕事ファイル7 【水質検査】

水がきれいになっているか、毎日、水を分析してチェックしています。

- 水の分析データは、きれいになったかを確認する重要なものであり、また、浄化センターの運転にも反映するものです。ミスは許されないので緊張感を持って取り組んでいます。
- 水質検査は、みんなで力を合わせて下水を処理した、その結果が数値でわかるものです。問題なく処理できているとうれしいです。
- 水を分析することで、みんなが使った下水や、琵琶湖に流す処理した水の毎日の状態がわかります。滋賀県の水の状態を記録していくという思いで取り組んでいます。

水質分析

お仕事ファイル9 【汚泥燃料化】 湖西浄化センター

湖西浄化センター等で毎日発生する汚泥を乾燥、炭化して石炭の代わりとなる燃料を製造し、販売しています。

- 発生する原料の汚泥は水分量など毎日異なりますが、燃料は商品として品質を一定にしなければなりません。燃料化施設の運転には毎日気を使います。
- 汚泥の燃料化により、浄化センターから汚泥を廃棄物として運んでいたトラックが、燃料を運ぶトラックに変わりました。その変化に携われて喜んでます。
- これからも汚泥の燃料化などの有効利用が広がっていくことに期待しています。

製造した燃料

お仕事ファイル2 【ポンプ場点検】

下水道管は下水が流れるように勾配を設けていますが下水道管が地下深くなっていくのでポンプ場で水を汲み上げることが必要です。浄化センターまで下水がきちんと流れるようにポンプ場の点検をしています。

- ポンプ場で異常があると警報が送信され、夜、家にも駆けつけて確認に行かなければなりません。
- ポンプ場でのトラブルを解決することは、その後の浄化センターでのトラブルを低減することにもなります。トラブルを早急に解決できた時はほっとします。
- 布や油などが流れてくることがあります。ポンプに詰まって止まってしまうと下水があふれて大変なことになります。下水道に異物や油を流さないように気をつけてください！

ポンプの点検

お仕事ファイル4 【設備点検】

浄化センターやポンプ場などにある設備を定期的に点検し、不具合が確認されたら速やかに修繕を行っています。

- 下水は途切れることなく毎日流れてくるので機械が故障して動かなくなると大変です。気を使います。
- 設備の不具合が発生すると下水の処理を止めないように早急に復旧する必要があります。保管している機材や部品を使ってみんなで知恵を絞って復旧することが出来た時はうれしいです。
- 浄化センターやポンプ場にはいろいろな役割の設備がたくさんあるので下水が毎日処理できるように計画的、定期的に点検しています。

設備の点検・修繕

お仕事ファイル6 【清掃】

浄化センターやポンプ場などを定期的にきれいにしています。下水の流れるところも一時的に下水を止めたり抜いたりしながら清掃しています。

- 清掃場所によってはきれいにしてもすぐに汚れだすところもあるので忍耐が必要です。
- みんなで清掃してきれいになったのを見たと気分がいいです。
- 浄化センターに見学などで来られる方を思いながらきれいにしています！

最終沈殿池の清掃

お仕事ファイル8 【汚泥肥料化】 高島浄化センター

高島浄化センターで毎日発生する汚泥を重機で掻き混ぜ発酵させて、肥料の「おうみつ肥」を製造し、販売しています(無人販売)。

- 毎日、肥料の原料である汚泥の状態や天候が異なるので、空気の注入や汚泥の混合の具合を調整して製造するのが難しいです。
- お客さんから「「おうみつ肥」を使ってよく育った」という感想を聞くと嬉しくなります。
- 「おうみつ肥」を地域の方に使ってもらうことで地産地消となります。毎日13:00~16:30に販売しているのでぜひお越しください。

重機での混合作業

わたしたちが使った水が琵琶湖まで流れていく間の下水道管やポンプ場、浄化センターの役割や働きについて理解して、暮らしの中で水の使い方や流し方に気を配って琵琶湖の環境を一緒に守っていきましょう！





ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと 健幸創造都市 草津

草津市は、総人口141,090人（令和7年9月30日現在）の、滋賀県の南部に位置するまちで、古くから交通の要衝として栄え、市内には史跡草津宿本陣をはじめ多くの歴史遺産がみられます。琵琶湖に面した湖岸エリア、多くの人々が暮らす市街地エリア、豊かな自然が息づく山側エリアがあり、一つのまちの中で多彩な顔を見せます。

まちよりも高い位置を流れる天井川として、全国的に有名であった草津川は、草津川跡地公園「^{あいさい}彩ひろば」^で「^{あい}de愛ひろば」として生まれ変わり、自然とつながり、人とつながる憩いの場として賑わいを見せています。また、令和6年には、インフロニア草津アクアティクスセンター（草津市立プール）が完成し、スポーツを通じた人々の交流が広がっています。

「住みよさランキング2025」（東洋経済新報社）では、全国812区で草津市が総合第6位に選ばれ、滋賀県での総合順位は引き続き第1位を維持するなど、魅力あふれる住みよいまちとして発展しています。



【史跡草津宿本陣】

江戸時代、宿場町に置かれ、大名や公家などが休泊した「本陣」。史跡草津宿本陣は、建物が現存するうちでは全国でも最大級です。



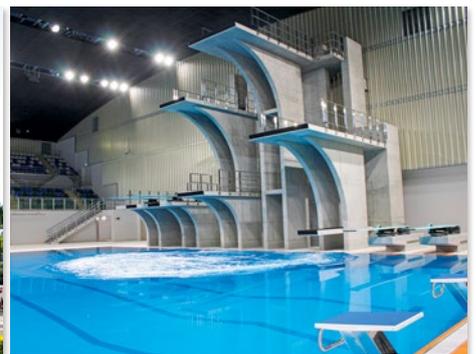
【草津川跡地^でde愛公園ひろば】

天井川として有名であった草津川が草津川跡地公園として生まれ変わり、商業施設「クサツココリバ」では、食事やヨガなどが楽しめます。



【インフロニア草津アクアティクスセンター（草津市立プール）】

1年中利用できる温水プール3面（50mプール、25mプール、飛込プール）を備えた西日本初の施設です。国スポ・障スポ2025の会場としても使用されました。



草津市の下水道

草津市では昭和49年に公共下水道事業に着手し、湖南中部浄化センターの供用開始を受け、昭和57年より供用を開始し、整備地区の拡大を図ってきました。令和6年度末において、下水道普及率は99.8%となっています。

また、下水道事業における浸水対策として、昭和54年より雨水幹線の整備を進めています。

（草津市上下水道総務課）

お知らせ

滋賀県では、皆様に下水道の役割を知っていただくためにさまざまな情報を紹介しています。

① バラ園一般公開&施設見学会 2026 春 (湖西浄化センター)

【開催期間】

令和8年5月20日(水)から5月31日(日)まで

9時～16時30分まで(入場は16時まで)

無料駐車場あり(約40台)

- 湖西浄化センターのバラ園一般公開【**入場無料**】を行います。場内には約100種700株のバラが咲きます。
- また、この公開期間中の土曜日・日曜日に、【**施設見学会**】を開催しますので、下水処理場で水がきれいになる過程や汚泥が炭化物(燃料化物)になる施設を見学できます。

【午前および午後各1回開催、所要時間は40分程度】

※事前予約不要

★施設見学会参加者には、**滋賀県流域下水道マンホールカード**を特別にプレゼントします。

詳細は、県ホームページやチラシを通して皆様にお知らせします。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ryuikigesui/nanburyuiki/>



バラ園の様子



見学会の様子

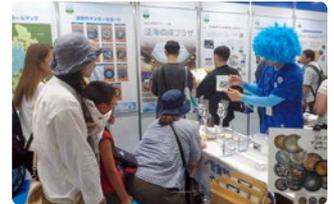
お問い合わせ先

湖西浄化センター TEL:077-579-4611
〒520-0102 大津市菟鹿三丁目1番1号

② 下水道展 '25大阪へ出展しました (インテックス大阪)

令和7年7月29日から8月1日の間、インテックス大阪で開催された「下水道展'25大阪」に「滋賀県下水道課/淡海環境保全財団」として出展しました。

- 滋賀県の下水道関連の取組をPRするとともに自治体とは現状や課題、企業とは最新の技術情報について情報交換を行う貴重な機会となりました。
- 一般の来場者の方には下水道の正しい使い方を学ぶ「つまらん管実験」や下水をきれいにする仕組みの解説を行いました。



下水道展の様子

③ 矢橋帰帆島公園子どもの広場 エントランスのリニューアル!

矢橋帰帆島公園「子どもの広場」では、老朽化した遊具のリニューアルを進めており、令和9年春のリニューアルオープンを目指しています。

- このたび、第1弾として、新エントランスがご利用いただけるようになりました。
- 今後も子どもの広場の利用を休止することなく安全に工事を進めていきます。



リニューアルしたエントランス

お問い合わせ先

滋賀県南部流域下水道事務所 TEL:077-564-1905

プラザ ミニ コーナー

下水道の普及啓発や水環境の保全に取り組んでいます!



マンホールカード配布2万人達成
(淡海環境プラザ)



下水汚泥肥料「おうみっ肥」配布
(おまつ花フェスタ2025(秋))



水環境体験学習ツアー
(湖南中部浄化センター)



下水道工法体験
(けんせつみらいフェスタ)

公益財団法人 淡海環境保全財団は、下水道の普及啓発や水環境の保全に色々な形で取り組んでいます。

本広報誌「碧い湖」の編集のほか、2025年には、左の各写真のイベントや啓発などに取り組んでいます。これからも皆さんとイベントや啓発などを通して下水道や水環境保全について考え、共に取り組んでいきます。

お問い合わせ

公益財団法人 淡海環境保全財団
淡海環境プラザ担当 TEL:077-569-5306
【プラザホームページ】
<https://www.ohmi.or.jp/plaza/>



プラザホーム
ページへ



下の表の4つの黄色のマスの文字を並べ替えると、今回の記事で使われていることばになります。さて何でしょうか？

1	2	3	4		5	6	7
8					9		
10				11			
		12			13		
14	15			16			17
18			19			20	
	21	22				23	
24					25		

☆☆☆タテのカギ☆☆☆

- 【タテ 1】 滋賀県から京都府に流れる水路。京都に発展をもたらしました。建設の基になったのは卒論だったとか。
- 【タテ 2】 「無料」、「ご自由に」といった意味でも使用されています。
- 【タテ 3】 多彩な足技のある格闘技。韓国の国技。
- 【タテ 4】 卵黄のこと。
- 【タテ 5】 地域の生物のつながりや営まれる物質循環のひとまとまり。エコシステム。
- 【タテ 6】 これがあると目的地まで導いてくれます。
- 【タテ 7】 糞で作った「たたく」は美味。
- 【タテ15】 愛知県発祥の麺。
- 【タテ16】 からだの一部分。髪で隠れがちですが広さや形で顔の印象が違います。
- 【タテ17】 焼きそばを卵で包んだB級グルメ。
- 【タテ19】 高速で縫物をするマシン。家庭科の授業で使ったのが最後でした。懐かしい。
- 【タテ20】 昨日でもない、今日でもない、素敵な〇〇〇がやって来ます。
- 【タテ22】 空気中に細かい水滴が浮かんでできたもの。これが晴れるとすっきりします。

☆☆☆ヨコのカギ☆☆☆

- 【ヨコ 1】 昭和のごちそうの代表選手。厚切りのステーキをこう呼んでいました。
- 【ヨコ 5】 からだの一部分。ここに生き様も表れるようです。
- 【ヨコ 8】 並んでいる列の途中に無理やり入ること。走行中の車の前に進路変更することもこう言います。
- 【ヨコ 9】 昔の「おひつ」のことを飯櫃(いびつ)と言い、その形が円形でないことから、歪んだという意味で使われるようになったそうです。
- 【ヨコ10】 世界三大穀物の一つ。世界ではアメリカ、日本では北海道で多く栽培されています。
- 【ヨコ11】 からだの一部分。美味しい物を食べた時に〇〇鼓を打ったりします。
- 【ヨコ12】 生物の健康や生命に害を与えるもの。【ヨコ11】の前に付くと、厳しい悪口や皮肉を言うことを表します。
- 【ヨコ13】 田んぼに植える植物。
- 【ヨコ14】 雪の中で滑ったり、転んだり(?)して楽しめます。
- 【ヨコ16】 風呂の湯をすくったり、醤油などを仕込むのに使われたり。昔は木でしたが、今は鉄やプラスチックなどの素材もあります。
- 【ヨコ18】 日本の建築は木造が多く、「木の文化」と呼ばれるのに対し、ヨーロッパはこれが建築によく使われています。
- 【ヨコ19】 ステーキの焼き方で、焼き過ぎず、生過ぎないその間。
- 【ヨコ21】 中南米のタコスが有名な国。
- 【ヨコ23】 緑色の葉で、香りが高く、刺身、そうめん、冷奴、パスタなど食卓で多様に用いられています。
- 【ヨコ24】 〇〇〇車。幼児の愛車。こけません。
- 【ヨコ25】 発芽した時に最初に出る葉。〇〇亭四迷という小説家がいきました。

★抽選で図書カードが当たる!★

◇応募方法

官製はがきに、「答え、郵便番号、住所、氏名、年齢、本誌の入手場所、本誌に対する評価点(100点満点中)、ご意見・ご感想」を記入し、

〒525-0066 草津市矢橋町字帰帆2108番地
公益財団法人 淡海環境保全財団
淡海環境プラザ担当

までお送りください。正解者の中から抽選で10名様に図書カード(500円分)を差し上げます。

締め切りは2026年7月15日(消印有効)です。

正解は次号(No.69)にて発表します。

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

なお、前号(No.67)の正解は「オウミッコ」でした。

また前号の評価点は、平均点91点でした。

読者の声(第67号)

下水道リサイクル肥料が色々な場所で使われていることを初めて知りました。自宅は小さな畑があるので、おうみっ肥を使ってみたくて思いました。(近江八幡市 85歳)
→「おうみっ肥」は高島浄化センターでのみ毎日13:00~16:30に販売していますので近くにお越しの際はぜひ購入して使ってみてください。

毎年、湖西浄化センターのバラ園、春・秋とも楽しみにしています。大切な水を守るためがんばって下さい。なかなか気付かないことを多くの人に知らせてください。(大津市 68歳)
→湖西浄化センターのバラ園は、毎年目新しい品種を栽培したり、目新しい見せ方を取り入れたりして進化していますので今年も行ってみてください。ちなみに湖西浄化センターのバラ園でも「おうみっ肥」が使用されています。

サステナビリティの記事が面白かったです。江戸時代のように始末の良い暮らしは理想的だと思います。おうみっ肥についても興味を持ちました。コンポストについても詳しく知りたいです。(犬上郡 38歳)

→江戸時代は資源を細かく有効活用する産業(職業)があり、現代も目指しているサーキュラーエコノミーが構築されていたようです。先人の暮らしから学ぶのは楽しいですし、現代でも活かせる知恵があるかもしれません。

■ 編集後記 ■

今回の特集では浄化センターを取り上げました。下水道管を通して浄化センターに集められた下水は量も質も毎日変化しますがその変化に対しても微生物が浄化できるように、技術者がたくさんの設備をきめ細かく調節していることがわかりました。一方、自然界でも生態系の中で水が浄化されていくメカニズムが存在し、その生態系を保全、改善していく必要にも気づかされました。この二つの浄化システムが健全に働くことでびわ湖の水や自然が守られていくことを願います。

「碧い湖」は下水道について県民のみなさんに知っていただくため、年2回発行しています。

県内の各機関、市町役場、図書館、金融機関、病院等に置いてあります。

次号(2026年9月発行予定)もぜひ御覧下さい。

発行所 滋賀県琵琶湖環境部下水道課
〒520-8577
大津市京町四丁目1番1号



抽選の応募、記事についてのお問い合わせ

〒525-0066 草津市矢橋町字帰帆2108番地

公益財団法人 淡海環境保全財団

淡海環境プラザ担当

TEL : 077-569-5306

FAX : 077-569-5334



この印刷物は古紙パルプを配合しています。針がねを使わない環境にやさしい印刷物です。